

日時：2016年8月23日（火）12:00～16:00

場所：東洋大学 2号館 3階 第1会議室

※当初、8月22日（月）に実施予定であったが、台風接近のため翌日に順延した。

出席者：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、荒川歩、松田英子、  
小塩真司、山崎晴美、北村英哉、中村真

## 日本パーソナリティ心理学会第121回常任理事会

### 報告事項

- I 理事長挨拶
- II 各種委員会報告（各種委員会からの審議依頼事項を含む）
  - 1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」第25巻第2号

7月22日完了。国際文献社内で最終稿作成中。PDFが完成次第J-STAGEに掲載する。  
11月に印刷予定。追悼特集もこの号に掲載される。

(2) 第25巻第3号（途中経過）

### 掲載予定論文

種別	題目	筆頭者	受稿	採択
原著	アタッチメントスタイルと親イメージの関連－20 答法による探索的検討	田附紘平	2015/2/3	2015/9/30
原著	子どもの気質と関連する遊びが養育者の遊びにおける対処可能感を介して育児不安、育児満足に及ぼす影響	門田昌子	2015/3/25	2016/5/31
ショート	恋愛関係における接近・回避コミットメントと投資モデルの関連	古村健太郎	2015/8/14	2016/6/6
ショート	中学生のやりがいと人生の意味との関連	濱野佐代子	2015/8/10	2016/6/6
ショート	児童における社会的目標構造の認知と協同的な学習活動—動機づけを介する過程の検討	岡田涼	2016/2/12	2016/6/28
原著	日本語版擬人化尺度の作成	上出寛子	2016/4/12	2016/8/1

(3) 審査状況

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取下
1	8	15	20	2	1
2	3	10	15	1	1
3	3	16	12	0	0
4	1	22	21	1	2
5	1	11	19	4	1
6	3	17	4	5	5
7	0	13	11	4	0

(4) 論文採択後の早期公開に向けたシステム構築について（審議依頼事項）

加藤委員長より、早期公開について次の通り提案があった。

印刷版の体裁が整う前に採択論文を Web 上にアップしたいが、論文 1 本ごとにアップするのは作業に伴う負担が大きいので、例えば、1 号あたり 10 本掲載であれば、5 本揃った段階でアップする方式を取りたい（つまり、各号に掲載される論文を 2 度に分けてアップする）。J-stage への申請手続きとの兼ね合いで開始する号を明確にする必要があり、第 26 巻第 1 号からアップすることを希望する。そのための費用は大よそ以下の通りである。

①早期公開に伴う諸費用

\*J-STAGE の UP 用

搭載費 3500 円+10 頁×250 円=6,000 円 原著 1 論文当たり

年間 15 本 15×6,000=90,000 円

搭載費 3500 円+3 頁×250 円=4,250 円 ショート 1 論文当たり

年間 15 本 15×4,250=64,000 円

計:年間 15 万 5 千円増

\*英文アブストラクト（校閲）

現行：1 万数千円（1 巻あたり）

→2 万円

年間：1 万 5000 円増

\*日本語校閲（交渉あり）

現行：3 万から 4 万円（1 巻あたり）

→4 万円×2=8 万円

年間：4 万×3=12 万円増

②時期

第 26 巻第 2 号（あるいは第 1 号）からとしたいが、J-STAGE に申請書を提出する関係から、明確にする必要がある

この提案について、次の通り、意見が交わされた。メリットは速報性。従来は印刷版と同時か少し遅めの公開であったが、格段に速く公開されることで、著者の業績として早めに認

知されるようになる。また、競争の激しい分野だと、早くアップされることは意義がある。先駆的試みとして他学会に先んじて行う意義のある企画であると考えているが、26巻から開始ということであれば、印刷版としては、来年度の発行なので、来年度の事業に含まれるべきだが、事実上、前年度からお金がかかるということであれば、前年度の予備費を適用するなど、財務的には柔軟な対応で可能と考える（尾見）。j-stage側も巻ごとに始めるのが望ましいとの意向（加藤）。

審議の結果、この提案が承認された。なお、印刷版の存続については、今後、継続検討することを申し合わせた。

#### (5) 依頼論文について（審議依頼事項）

加藤委員長より、英語論文の掲載が重要度を増している現状を鑑みて25回大会に招聘した外国人の先生お二人に、国際交流委員会を通じて、それぞれに論文の執筆をお願いしたいとの提案があった。

審議の結果、小塩国際交流委員長を通じて依頼することを申し合わせた。

#### (6) 内規の加筆について（審議依頼事項）

加藤委員長より、日本パーソナリティ心理学会機関誌広告に関する内規に新たに以下の第5条を加えたいとの提案があった。

第5条 日本パーソナリティ心理学会大会準備委員長から依頼があった場合には、大会に直接関係する事柄に関して、広告を掲載することができる。

審議の結果、承認された。なお、原則として、機関誌の余白部分がある場合に掲載する方針であることを、また、広告の掲載内容としては、同内規の第3条に基づくことを併せて申し合わせた。

### 2 経常的研究交流委員会（荒川委員長）

第120回常任理事会で報告した各種計画が順調に進行中であるとの説明があった。

### 3 広報委員会（松田委員長）

(1) ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

#### (2) 大会関連

YPP2016について、第120回常任理事会で報告された企画内容に変更はない旨の説明があった。また、7月31日時点の参加申込者は30名（内訳：企画1発表希望者：6名、企画2発表希望者：18名、参加のみ希望者6名）、懇親会参加希望者は19名であるとの報告があった。

#### (3) 対面会議

大会1日目の17:00～17:30に予定している。

(4) 新規委員候補

解良優基（奈良教育大学 特任講師）

樫原 潤（日本大学・日本学術振興会 PD）

齊藤 彩（国立精神・神経医療研究センター 流動研究員）

＊他 1 名と現在交渉中である。

(5) 今後の活動予定（継続を含む）

- ・ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時）
- ・委員分担コンテンツの更新
- ・YPP2016 の準備

(6) 書評関連（審議依頼事項）

松田委員長より、これまで広報委員が関心を持った書籍を出版社に書評を書くことを条件に寄贈をしてもらっていたが、①出版社からの書評依頼や、②会員が直接広報委員会に書評依頼をしてきたもの、③常任理事を通して書評依頼があったものがあるので、すべてに対応できない可能性を含めて、広報委員会の中で次の基準を考案したので、審議してほしい旨の依頼があった。

<書評の依頼が広報委員会にあったときの対応基準（案）>

- ①パーソナリティ心理学のカバー領域で学術書であること
- ②広報委員が関心を持ったもの
- ③評者の指定は原則できない
- ④書籍は評者への寄贈となる
- ⑤毎年 8 月，11 月，2 月，5 月の 1 日に更新をする予定

これについて、提案通りで良いのではないかと、全ての書評依頼に対応する必要はない、などの意見が交わされ、審議の結果、対応基準を以下の通りとすることを申し合わせた。また、渡邊理事長より、書評を広報委員以外に依頼しても良いのではないかとこの意向が示された。

<書評の依頼が広報委員会にあったときの対応基準（常任理事会承認）>

- ・ パーソナリティ心理学のカバー領域で学術書（新刊）であること
- ・ 評者の指定はできないこと
- ・ 書評依頼の諾否を広報委員会の合議で決めること
- ・ 書籍は評者への寄贈となること
- ・ 毎年 8 月，11 月，2 月，5 月の 1 日に更新をする予定であること

(7) パソ心 WEB ページ委託運用の件（審議依頼事項）

松田委員長より、以下の通り説明と提案があった。

2015年の大会時に開催された「電子化小委員会のシンポジウム」において、WEBサイトの改善についての議論がなされ、次期広報委員会で引き続き議論してほしいとの意見があった。改善点として挙げられた意見には、他の学会で外部委託しているWEBページとの比較に基づくものが含まれ、現行の業務と同時並行では対応できないと判断し、本学会でも外部委託をしてはどうかと検討することにした。また、パソコンのHPはかつての広報委員がボランティアで作成されたものを更新のみを歴代の委員が行ってきたが、何か事故があったときには復旧できないリスクがある。

国際文献社に見積もりを依頼したところ、別紙の通りHP構築初期費用545,400円、年間の運用費73,440円、HP更新費用4,000円/回であった。

この問題について審議が行われ、Webページの管理・運営を広報委員会の委員に任せている現状が負担増になっている現実を改善することには意味がある、国際文献社の見積額は高額なのか、などの意見が出された。また、渡邊理事長より、基本的には外部委託する方向性でいきたいとの意向が示された。

これをふまえて、来年度予算に具体的に事業計画を計上するとして、仮に外注が成立した場合にどのようなメリットがあるのか、負担軽減が最大の目的なので広報委員の仕事がどのように削減できるのか、を併せて検討しながら、継続審議することを申し合わせた。

#### 4 国際交流委員会（小塩委員長）

##### (1) 英語 webpage の公開

日本パーソナリティ心理学会の英語ページ改訂版が公開されたとの報告があった。

[http://jspp.gr.jp/about\\_us.html](http://jspp.gr.jp/about_us.html)

##### (2) ICP2016 において、日本パーソナリティ心理学会共催の Thematic Session が行なわれ、盛会であった旨の報告があった。

##### (3) 以下の通り、勉強会を企画しているとの報告があった。

【日時】2016年8月29日(月)・13時開始

【場所】早稲田大学 戸山キャンパス 33号館7階、702号室

【費用】無料

【文献】講読は以下の文献を中心に行う予定

・Sutin, A. R., & Terracciano, A. (2016). Personality traits and body mass index: Modifiers and mechanisms. *Psychology & Health*, 31, 259-275.

・Sutin, A. R., & Terracciano, A. (2016). Five factor model personality traits and the objective and subjective experience of body weight. *Journal of Personality*, 84, 102-112.

・Stephan, Y., Sutin, A. R., & Terracciano, A. (2015). Subjective Age and Personality Development: A 10-Year Study. *Journal of Personality*, 83, 142-154.

・Terracciano, A., Sutin, A. R., et al. (2014). Personality and risk of Alzheimer's disease: New data and meta-analysis. *Alzheimer's & Dementia*, 10, 179-186.

(4) 大会への招聘費について、東洋大学 HIRC から 194,000 円の補助予定である旨の報告があった（ただしこのうち懇親会代 40,000 は未定）。

(5) 来年度大会での外国人研究者招聘について（審議依頼事項）

小塩委員長より、来年度の大会準備委員長（予定）から大会で外国人を招聘することは可能かとの打診があったとの報告と相談があり、次の通り、意見交換が行われた。国際交流委員会の企画として検討することは可能（渡邊理事長）。日本国内での移動費用など多額に及ぶ可能性があるが、どの程度の予算が必要なのか、全額を本学会で賄うのは、事実上、難しい、大会の予算からの支出もあり得る（尾見財務担当常任理事）。管轄の国際交流委員会と大会校とのあいだで検討が必要（渡邊理事長）。招聘したい研究者が不明のままでは議論しにくい（渡邊理事長）。企画の内容と予算について、再度、尋ねてみる（小塩委員長）。

この件について必要に応じて継続検討していくことを申し合わせた。

(6) 委員構成

<2018 年度大会まで（2 期目）>

守谷順（関西大学）

田中麻未（千葉大学）

<2018 年度大会まで（1 期目）>

田島 祥（東海大学）

高野慶輔（ルーヴェン大学）

<担当常任理事>

小塩真司（早稲田大学）

## 5 学会活性化委員会（山崎委員長）

(1) 委員構成

<2018 年度大会まで>

委員長：山崎晴美（日本大学）

副委員長：藤田主一（日本体育大学）

委員：齊藤 崇（日本体育大学）、陶山 智（亜細亜大学）、中谷陽輔（同志社大学）

森 津太子（放送大学）、矢澤美香子（武蔵野大学）、守谷 順（関西大学）

※大会校委員である守谷順委員の任期は当該年度のみとする

(2) 優秀大会発表賞選考経過について

山崎委員長より、以下の通り、経過報告があった

優秀大会発表賞は連続した年度では受賞できないことを確認、第一次審査平均評価点の上位者計 9 名を第 2 次選考対象者として決定した。第二次選考審査者となる学会役員の大  
会参加の可否、および審査可能時間帯について、山崎委員長が確認する。

優秀大会発表賞採点票の配布・回収・集計手順について守谷大会校委員と協議した。なお、  
第 2 次選考の計画と実施は森委員が担当する。

### (3)第 24 回大会の優秀大会発表賞表彰準備について（審議依頼事項）

山崎委員長より、準備状況について以下の通り報告があった。

大会校へ委員会から支払う金額（懇親会会費、デビュー割）受賞者の招待状送付、を確認。  
受賞者への表彰状の作成については、昨年度の担当者に森委員より確認を取っていただき  
ながら、準備方法を検討する。方針としては、表彰状の用紙サイズを従来のものより変更し  
表紙と用紙（A4）を購入し、準備することとした。以上準備発送等、矢澤委員が担当。

表彰状のサイズを審議した結果、A4 サイズに変更することを常任理事会として承認した。

### (4)発表賞アンケートの配布と回収（審議依頼事項）

山崎委員長より、以下の通り、説明があった。

会員の意見を根拠として来年度以降の発表賞のあり方について検討していく方針にもと  
づきアンケート（別紙案）を実施する。アンケートは以下の 4 項目に留意した。

- ①現行の審査方法について簡単な説明を入れることと、その審査方法について知ってい  
るか否かを問う設問を入れることとなった。
- ②その審査方法についての評価、その理由を問う設問を設けることとした。
- ③全体的な意見を収集する設問を設けることとした。
- ④属性を問う設問では、年齢（10 代刻み）、会員区分を尋ねることとした。

アンケートは、大会受付時及び総会時に他の資料とともに全員に配布し、回収する。ま  
た、アンケート協力を呼びかけるポスター（A3）を作成し掲示する。以上のアンケートの  
準備、発送は矢澤委員が担当。大会校側の準備は守谷委員が担当。なお発表賞審査を行っ  
ている学会役員については、一般会員とは別に集計する。

アンケートについて審議した結果、①②の質問は必要ないことを確認したうえで、修正  
案を 8 月中に再提示していただくことを申し合わせた。

### (5)大会支援について

山崎委員長より、以下の通り、説明があった。

#### ①大会ハンドブック（マニュアル）の作成

作成にあたっては、藤田副委員長を担当とし、本年度大会校の守谷委員の協力の下、本学  
会ならびに他学会のマニュアル等を参考に作成していく。

- ・準備委員会マニュアル

国際文献社と大会準備委員会との役割区分や準備項目リストの確認がなされた。簡易的なマニュアルを早めに作成し、次回大会準備委員長に送ることとした。正式なマニュアルは9月中に作成予定。

渡邊理事長より、準備委員会マニュアルについては、物品に関する内容を含めてほしいとの要望があった。

#### ・スタッフマニュアル

準備委員会マニュアル同様、作成にあたっては、本学会ならびに他学会のマニュアルを参考にしていく（学部生スタッフにも使用できるものを作成）。来年度までに作成予定。

#### ②次期大会校との協力体制について

大会企画などについて、山崎委員長より次回大会準備委員長に連絡、確認する。

#### (6) 25周年記念企画について

##### ①25周年記念シンポジウム

活性化委員会として25周年記念シンポジウムの開催を常任理事会にて提案したい。企画・実施にあたっては学会全体で行っていく。年度内開催を予定しているが、予算措置が必要であれば次年度5月前後か。

この件について、次の通り、意見交換が行われた。

久しく、記念シンポジウムを開催していないので、25周年を記念して開いてもよいのではないかと、活性化委員会の単独開催ではなく学会全体で行ってはどうか（山崎委員長）。25周年は、26回大会の年に該当する、従来からシンポは経常が企画してきたので、活性化委員会と経常的研究交流委員会で相談してはどうか（渡邊理事長）。経常としては、集客が期待できないので、しばらくはシンポを行うことは予定していないが、今後、検討が必要か（荒川経常委員長）。一般向けのシンポであれば集客を見込める企画を検討すべきだが、それなりに準備が必要だし、もう少し細かな点をつめるべき、そのうえで来年度予算に計上するイメージか、会員向けであれば大会時に開催か（渡邊理事長）。

この議論をふまえて、学会活性化委員会で検討し、企画案（たたき台）を挙げてもらうことを申し合わせた。

##### ②学会ロゴマークの募集

25周年を記念して、学会ロゴマークを作成し、封筒などの印刷物、ホームページ等で使用していくことは学会のイメージを学会内外に定着させていくのに有効であり、活性化につながる。デザインは学会員から募集し採用者には感謝状と賞品を。審査員は未定。

この件について、以下の通り、意見交換が行われた。

本学会には、ロゴマークがないので、25周年を記念して作っても良いのではないかと、募

集を企画してはどうか、この企画をイベントとして盛り上げる、今後、大会のたびにロゴマークを考案する必要がないなどのメリットがある（山崎委員長）。公募にする意義が良く分からないので、再度、そのあたりを含めて検討してほしい（渡邊理事長）。専門家に意見を聞いて募集をかけるなどプロの視点も必要か（渡邊理事長）。

この議論をふまえて、慎重に検討することを申し合わせた。

### ③その他の企画

25周年にふさわしい企画がないか今後も検討を重ねていく。

## 6 学会賞選考委員会（北村委員長）

北村委員長より、以下の通り、第1次審査について説明があった。

委員長を除く5名の審査委員が、理事から推薦のあった原著論文6本、ショートレポート4本の論文に対して、それぞれA30点、B10点、C0点の評定を行った。

合計値から判断して、学会賞（原著）については、1位1本、2位に3本が並んだため、第2次選考委員会には、この計4本を候補論文として推すことにした。

奨励賞（ショートレポート）では、1位が2本、2位が2本であったので第1次選考委員会として、1位の2本の論文を第2次選考委員会に推すことにした。

これをふまえて、常任理事会において第2次選考を行った結果、「児童期における仲間への信頼信念と学校での孤独感との関連」（著者：酒井厚・ローテンバーグケン、J・ベッツ ルーシー・眞榮城和美、第24巻1号掲載）を「学会賞」とすること、「大学生運動部員におけるレジリエンスの2過程モデルの検討」（著者：上野雄己・小塩真司、第24巻2号掲載）および「潜在的エゴティズムが対人魅力に与える影響」（著者：津村健太・村田光二、第24巻3号掲載）を「奨励賞」とすることを決定した。

なお、評価方法については、来年度以降も継続検討していくことを申し合わせた。改善点としては、最高点と最低点を付けた審査者に、コメントを依頼することを確認した。また、今後、「学会賞」「奨励賞」を該当者なしとする場合の基準を設けるかどうかを検討すべきとの意見が出た。さらに、候補論文の著者が常任理事メンバーである場合は、最終的な決を採る際に、退席することを申し合わせた。

## III 日本心理学諸学会連合

### 1 日心連理事会（渡邊理事長）

日心連が一般社団法人化されたことにもない、会議の名称が「社員総会」に変わったこと、新規に加盟した学会などについて報告があった。

### 2 心理学検定について

特になし。

## IV 事務局報告

1 第 25 回理事会、第 25 回大会会員総会の報告資料について

中村事務局長より、報告資料の作成要領、提出期限について以下の通り依頼があり、提案通りに準備することを申し合わせた。

- ・各種委員会の報告資料は、A4 版 1 ページとする。
- ・報告資料を事務局長に電子ファイルで提出する。
- ・提出期限を 2016 年 9 月 1 日（厳守）とする。

V 第 25 回大会準備状況について

北村準備委員長より大会準備の進捗状況について報告があった。

VI その他

特になし。

審議事項

I 2015 年度予算・決算、2016 年度予算の件

尾見財務担当常任理事より、2015 年度決算書案、2016 年度予算案が示され、審議の結果、承認された。ただし、一部の表記を適正なものに更新することを申し合わせた。

II 会則改正の件

中村事務局長より、第 119 回常任理事会および第 120 回常任理事会での審議をふまえて、以下の通り、「会則第 2 条（事務局）」に事務局の住所を記載することが提案された。

第 2 条（事務局） この会の事務局を次の場所に置く。  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358 番地 5 アカデミーセンター  
国際文献社内 日本パーソナリティ心理学会事務局  
電話 03-5389-6243, FAX 03-3368-2822

審議の結果、上記改正案の「国際文献社内」に加筆して「(株) 国際文献社内」とする修正案が承認された。

III メールニュースの配信を希望しない会員が増加していることへの対応について

中村事務局長より、この件について国際文献社に相談したところ、現在運用されているメールニュース配信希望者向けのメーリングリストとは別に、追加料金なしで、マイページにメールアドレスを登録している全会員を対象とするメーリングリストを設定し、運用することが可能である旨を確認したとの報告があった。今後は、このサービスを必要に応じて利用することが提案され、承認された。

#### IV 第 120 回常任理事会議事録の件

審議の結果、国際交流委員会の委員の任期に誤記があったので、これを訂正することを申し合わせたうえで、同議事録が承認された。

#### V 会員の入退会に関する件

事務局より、別紙の通り、新入会希望者 10 名（うち 4 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望者 4 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。併せて、あて先不明者について報告があった。

また、2014 年度～2015 年度会費未納者（自動退会予定者）の一覧が示され、審議の結果、全員の退会が承認された。

以上の承認を受けて、2016 年 8 月 12 日現在、会員総数は 935 名である。（内訳は、一般会員 660 名、院生会員 260 名、学生会員 4 名、名誉会員 8 名、賛助会員 3 名。） ※ 今回審議対象の新規入会希望者 6 名は含まれない。

#### VI その他

##### 1 「再現可能性とパーソナリティ研究」への取り組みについて（渡邊理事長）

心理学評論特集号の編集をされた三浦先生から今後も継続してこの問題に取り組みたいので、本学会にも協力してほしいとの依頼があった。今後は、渡邊理事長と小塩先生を中心に検討を行い、必要に応じて常任理事会で相談したいとの方針が示され、承認された。

##### 2 名誉会員の推戴について（渡邊理事長）

このほど、長年に渡り本学会の機関誌「パーソナリティ研究」の論文校閲を担当して下さった安藤典明先生より、ご病気のため論文校閲を引退したいとお知らせが理事長に寄せられた。これを受けて、渡邊理事長より、安藤典明先生のこれまでの学会に対する多大な貢献・業績に感謝して名誉会員に推戴することが提案された。

安藤先生は、現在 65 歳であり、名誉会員の推戴に関する内規（原則として 70 歳以上）とは異なるが、これまでの本学会に対する多大な功績を特に考慮して、第 25 回大会の総会時に名誉会員を授与したいとの意向が理事長より重ねて示され、審議の結果、常任理事会として推挙することを全会一致で承認した。

今後、その準備を進めることを申し合わせた。

#### VII 次回常任理事会について

今回は、2016 年 12 月 17 日（土）15:00 から行う。場所は未定。

以上